

<原 著> 第49回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

## 新人看護師の職場適応過程の調査 ～メンタルサポート面談の取り組みを通して～

伊勢赤十字病院 医療技術部臨床心理チーム 臨床心理士<sup>1)</sup>

水谷 恵里<sup>1)</sup> 三堀 紗代<sup>1)</sup> 中井 茉里<sup>1)</sup> 伊藤 翔<sup>1)</sup>  
料崎 智秀<sup>1)</sup> 奥野 真希子<sup>1)</sup>

### A study on the work adjustment process of beginner nurses ～ research through interviews for mental health ～

Eri MIZUTANI<sup>1)</sup>, Sayo MITSUHORI<sup>1)</sup>, Mari NAKAI<sup>1)</sup>  
Sho ITO<sup>1)</sup>, Tomohide RYOZAKI<sup>1)</sup>, Makiko OKUNO<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Clinical Psychology Team, Department of Medical Technology, Ise Red Cross Hospital, Japan

**Key Words** : メンタルヘルス、新人看護師、職場適応

#### はじめに

病院で働く医療従事者の仕事は、患者に接する対人サービスであり、人命への責任が重いことや、他職種との人間関係を維持する必要性があること等、様々なストレスに晒されやすい。中でも看護師の業務は、患者の予期しない健康状態への対応や、本来の看護業務以外の仕事など、広範で多岐にわたる。

日本看護協会が調査した研究<sup>1)</sup>では2012年度の新卒者の離職率は7.5%であったという報告がある。また、三木ら<sup>2)</sup>によると、新卒者（入職1年目）は特にバーンアウトしやすいため、新卒3年目までの看護師を対象にしたストレス教育（対人関係技術の習得、ストレスへの気づき、自発的相談）の重要性が指摘されている。

#### 伊勢赤十字病院での取り組み

伊勢赤十字病院では、村林紘二院長による

「患者に対して高度なサービスを安全に提供するためには、職員の働く環境を快適にすることにより、ゆとりを持って仕事に臨むことが必須である」というコンセプトがある。臨床心理士（以下、心理士）もその一環として、職員のメンタルヘルスの充実化を図るための対策を考案するよう要望をうけた。職員の中でも看護師は最も多いことから、看護師の離職率を改善させることが重要な課題であったため、2010年度より、まずは、1年目の看護師を対象とし「メンタルサポート面談」と称して個別面談を開始した。その後、看護部長より、プリセプターから一人立ちした2年目看護師は、先輩達の注意の目が行き届きにくくなり、不安が強い状態が維持されていると思われるため、引き続き面談を行ってほしいとの要望を受け、2年目看護師も対象に加えることとなった。

「新人看護師」というと、一般的には新卒者というイメージがあるが、他施設で経験があ